

コスモ3Dバルブ

コスモ工機は、小口径管用の不断水三方弁「Rバルブ」をリニューアルする。不断水三方弁は、切り回し予定区間の始点と終点部に設置して不断水による管路の移設工事を可能にするもので、管路更新工事での採用が期待される。

浅層埋設管路に対応した回転型弁体の「Rバルブ」を開発。発売以来、全国の水道事業体に2000台以上の納入実績を有している。今回のリニューアルでは、耐震管への接合を可能にするなど従来の「Rバルブ」のコンセプトを継承しながら、最新の耐震管路に適應するよう改良した。名称は「コスモ3Dバルブ」(三方向弁 Three Direction Valve)とした。

③三方弁体の内径をフルボア形状にすることで、洗浄用レベ等々の通過をスムーズに行えるよう改良した

コスモ工機

不断水三方弁を改良

小口径管用 コスモ3Dバルブ

の略)として、日本水道協会全国会議併催の名古屋水道展でプロトタイプを展示する予定。主な改良点は次の通り。

④本体の底部を漏斗形状にすることで不断水穿孔時の切粉排出方法を見直し、施工時間の短縮を実現した

孔部の防錆機能をオプションとして追加した
今後、ユーザーの意見を要望を広く取り入れて来年度からの販売に向け製作していく予定。同社では「一刻も早い」全国の耐震化を推進すべく、製品だけでなく、施工に關しても工期短縮によるコストダウンを図るなど、顧客の選択幅を広げていく」としている。

①分岐部の接合形状をK形受口から挿口形状に変更することで、耐震管路への接合を可能にした

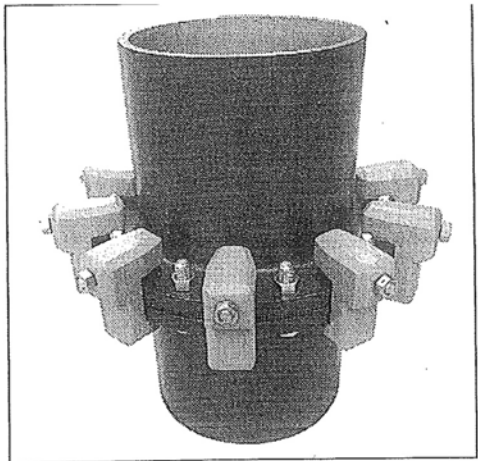
⑤ケース本体の離脱防止金具を二つ割離脱防止押輪から、後付移動防止金具に変更することで施工時間の短縮を実現した

⑥従来の不断水工法に採用していた管切断部の防錆工法を応用して、穿

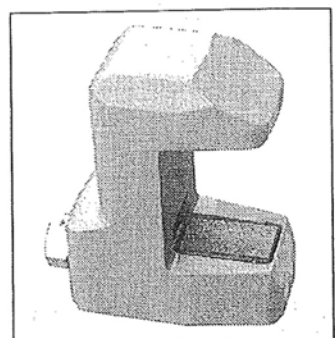
新型フランジ固定金具を開発

コスモ工機 施工性の向上を実現

コスモ工機(東京都港区、加藤正明社長)は、施工性の向上を目的に改良した「新型フランジ固定金具」を名古屋水道展で初披露すると発表した。同社は、既設管の耐震補強金具のラインアップを拡大しており、これまで既設管継手部補強する「既設管継手部補強金具K形用、A形用」やフランジを補強する金具として、フランジ全周を覆う「フランジ補強金具」、フランジからの漏水を未然に防ぐ「フランジ固定金具」を販売している。いずれの製品も3DKNの離脱阻止性能が備わっている。管路の耐震化が進むなかで、既設管の継手部補強金具がクロスアップされているが、継手の弱点ともいわれているフランジを補強する製品に新たなラインアップが加わったことで、管路トータルでの補強が実現可能となる。



フランジ部にコの字形の金具を取り付ける



新型フランジ固定金具

しかし、これらの製品はソフトシール弁などのフランジ外周に台座があるものには取り付

けができない課題があったことから、同社では分割タイプのフランジ固定金具を昨年の郡山水道展で発表して以来、販売実績を積み重ねてきた。今回発表するのは、これまでの実績から得た「現場での顧客の意見・要望」を取り入れて施工性向上を図ったもの。従来のフランジ固定金具は、ボルトを管軸方向から締め付ける際に、工具が入らないことも考えられたが、「新型フラン

ジ固定金具」は、周方向からボルトを締め付けてフランジを固定するバーチカル方式を採用することで施工性の向上を図っている。また、フランジ外周面の塗装にキズを付けないようにするなど、さまざまな工夫が施されている。

現在、同社では「新型フランジ固定金具」の来年度発売に向けてラインアップの拡大を図っており、完成次第順次新型に切り替えていく予定だと

している。また、10月29日から31日まで開かれる名古屋水道展では、K形継手部用補強金具の施工性向上を図った「耐震型三重防護金具」のプロトタイプを展示する予定もあるという。

同社は、「展示会を通して顧客の意見・要望を真摯に受け止めて使いやすい製品開発につなげた」とコメントしている。

新型フランジ固定金具

コスモ工機 改良で施工性が向上

コスモ工機は既設管の耐震補強金具のラインナップを拡大している。これまで既設鉄管の継手部を補強する「既設管継手部補強金具K形用、A形用」やフランジを補強する金具として、フランジ全周を覆う「フランジ補強金具」、フランジからの漏水を未然に防ぐ「フランジ固定金具」を販売。いずれも3DNの離脱阻止性能を有しているが、今月29〜31日開催の名古屋水道展では、顧客の意見・要望を取り入れて改良し、施工性の向上を図った「新型フランジ固定金具」を発表する。

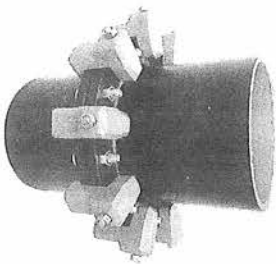
顧客の声を活かして

フランジ固定金具は既設のフランジ部にコの字形の金具を取り付け、フランジ漏水を未然に予防するための金具。耐震管路の継手性能基準である3DNの離脱阻止性能を有している。もともとフランジ漏水を防ぐ金具には、全周を覆う「フランジ部漏水補強金具」があったが、平成25年度から離脱阻止性能を備えた「フランジ補強金具」が、今回来場での顧客の意見・要望を取り入れて改良し、施工性の向上を図った「新型フランジ固定金具」は、従来のフランジ固定金具は、ボルトを管軸方向から締め付ける際、工具が入らないケースも考えられたが、今回の「新型フランジ固定金具」は周方向からボルトを締め付けてフランジを固定する「バーチカル方式」を採用、施工性の向上を図った。また、フランジ外周の塗装にキズを付けないよう工夫が施されている。

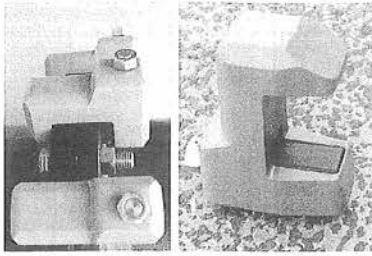
管路の耐震化が進む中、既設管の継手部補強金具がクロスアップされているが、継手の弱点ともなるフランジを補強する製品に新たなラインナップが加わったことで、管路トータルの補強が実現可能となる。

現在、「新型フランジ固定金具」について、来年度の発売に向けてラインナップ拡大を図っており、順次新型に切り替えていく。名古屋水道展では、K形継手部用補強金具の施工性向上を図った「耐震型二重防護金具」のプロトタイプも展示する予定。

同社では「展示会を通じて顧客からの意見・要望を真摯に受け止め、使いやすい製品開発につなげたい」としている。



新型フランジ固定金具(右)。既設フランジ部に取り付けることで、漏水防止と離脱阻止機能を発揮する。



既設フランジ部に取り付けることで、漏水防止と離脱阻止機能を発揮する。